

子どもたちがやる気になる国語教育

2021.2

和歌山大学 菊川恵三

【ねらいと背景】

「子どもたちがやる気になる国語教育」、これは教員にとっての永遠の課題だろう。そこには「公式」に公式があるわけではなく、学校や家庭の時代背景があり、同じ国語教育でも活動・教材ごとに違う。このプロジェクトは附属小学校川端大奨教諭と大学の菊川が中心になり、「書くこと」をテーマに研究協議や授業参観を通して、子どもたちのやる気を育てる授業実践を目指した。

また、このプロジェクトには市内公立小学校の2名の教諭が参加した。さらに、菊川ゼミの4回生二人も加わる予定で計画を進めた。

<教員> 四箇郷北小学校:田村竜士先生 貴志小学校:前田知洋先生
<大学生> 4回生:神谷一樹 木村敦子

【実施状況】

本年度は、新型コロナウイルス感染拡大のため、その対策を踏まえた日々の授業で忙殺され、このプロジェクトのために十分な時間がとれなかった。参加の教員はいずれも中堅教員として学校での仕事も多いことが、状況に拍車をかけた。

1月に入り非常事態宣言が出される中、感染防止が最優先となったので、これまでの計画を変更し、無理のない範囲で実施することとし、次のような計画ですすめている。

12月2日:川端・菊川で今後に向けての話し合い(大学)

約90分をかけて、川端教諭から「書くこと」についての問題認識を聞き、今後の具体的な進め方について話し合った。

1月上旬:2度目の緊急事態宣言が大阪府に発出

予定していた1月の授業提案と協議が開催できなくなったので、2月に延期することを決めた。その後、宣言が3月上旬まで延長されたので、どのように進めるかについて再度調整した。ともかくも感染状況が抑えられ、小学校における安全確保が担保できるようになるまで、無理はしないことを確認した。

【今後の予定】

2月下旬:授業提案と協議(附属小)

「書くこと」を意欲的に進めるために、現在の国語教材をいかに生かしていくか。川端教諭が授業提案をし、参加者がそれぞれの立場から意見・指導をおこなう。参加者はそれを自分の授業に応用して、新たな授業提案・授業実践につなげていく。

3月上旬:授業実践(附属小)

上記の提案授業に改良を加え実践授業をおこない、参加者は実際に参観するだけでなく、ビデオ収録したもので参観する。コロナ感染防止の観点からは、実際の参観は最低限にするなどの配慮が必要になる。

3月下旬:研究協議と反省会

上記の参観授業について、研究協議を実施する。授業実践と協議を分離してしまうことになるが、このことによって感染リスクは大幅に軽減できるだろう。

- ★今後の予定を上記のように考えている。2月に入り感染も終息の兆しが見えているので、計画は進むと考えている。ただし、想定外の事態はこの期間たびたび起こった。したがって、その都度の変更はやむを得ないと考えている。
- ★なお、菊川は今年で退職するが、このように中堅教員が集まって切磋琢磨していく経験は、次に必ず役に立つことだと確信している。

以上